令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

			学校番号	62	学校名	市立岐阜商業高等学校							
学校教育目標 (教育方針)		に応じた教育の展開を図り、将来を展望した魅力ある学校づくりに努めます。 」の校訓のもと、「生きる力」を身に付けた生徒の育成に努めます。											
3 つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	でたいか											
	生徒をどう 育てるか 【CP】	 市岐商デパート、販売実習やインターンシップ等の体験学習などを通して、望ましい勤労観や職業観の育成するための教育課程を編成 身に付けた知識・技術・態度により自ら課題を設定し、主体的・協働的に課題を解決する力の育成 目標に向かい、自ら励まし、継続して努力し続ける生徒に対するきめ細やかな粘り強い支援の実施 											
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	・ 基本的生活習慣や規範意識等が身に付いている生徒 ・ 商業の専門分野に関する興味・関心があり、資格取得に意欲的に取り組む生徒 ・ 他者を認め尊重し、自ら考え行動する人間力の向上を目指す生徒											
学校の抱える課題	・交通ルール・進路選択に	 な進路希望を実現するための教育課程の継続的な見直し と交通マナーの遵守による交通事故防止とヘルメット着用の推進 際して、進路意識の低下や進路先研究の不足が見られるため、生徒が主体的に進路実現ができるよう違 内容の実践を効果的に保護者や地域の方々に発信していく方策	進路ガイタ	ンス等	の充実								
	領域・分野	今年度の具体的な重。											
教育指導の重点	学習指導	・授業規律の徹底を図るとともに、生徒が主体的に取り組むよう「わかる授業・楽しい授業」を追求 ・全職員が生徒個々の実態を把握し、個に応じた具体的な到達目標を定め、生徒一人一人の個性を生	かす指導	を推進す	†る。								
	生徒指導	・さわやかな挨拶や清楚な身だしなみ等の基本的な生活習慣の確立に努めるとともに、人間性豊かな生徒ので ・地域に愛され、品位のある市岐商生を育成する。	育成を図り、	他を思	いやる心や	進んで奉仕する心を育成する。							
	進路指導	・自己の在り方や生き方を考え、主体的に進路を実現できる能力や態度を育成する。											
	その他	・生徒一人一人の個性を生かし、潜在能力を開花させる。また、商業科目の指導を通じて、実社会で ・生徒一人一人が倫理観やビジネスマナーを身に付け、地域貢献や外部連携の実践を通して豊かなコ											

年 度 目 標					年度末評価(自己評価)				
領域 分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策		育振興基本計画で の位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D	
学習指導	・生徒の実態を踏まえ、授業規律を徹底し、毎時間 の到達目標の明示	8 施策Ⅱ-8		・「生徒及び保護者等 を対象とするアンケー ト」の教職員及び学習	※7月と12月実施アンケートの比較において		▲教職員の項目では、生徒の評価で減少が見		
	・生徒の実態や多様な進路に対応した教育課程の編成と日々の 学習の積み重ねの重要性を認識させる指導の実践	8	施策Ⅱ-8	ト」の教職員及び字音 指導の項目評価	・教職員の項目では、保護者は全ての項目で肯定的評価が上昇した。一方、生徒の評価は教員の熱意、体罰、個人情報の管理面で減少した。・学習指導においては、生徒および保護者の全ての項目で肯定的評価が上昇した。特にICTの活用については生徒の回答において5ポイント以上の上昇が見られた。	В	られたことは、そのように感じ取られる場面 がないように気を付けなければならない。 〇学習指導においてはICT活用や総合的な 探究の時間「市岐商デパート」の項目の評価 が大きく上昇しており、生徒の達成感や満足 感が大きかったことを示している。		
	・生徒一人一人に具体的な目標を持たせ、ICT機器やタブレット端末を活用した創意工夫のある授業の展開	9	施策Ⅱ-9						
	・TPOに応じた礼儀正しい対応の指導	1	施策 I -1	・「生徒及び保護者等 を対象とするアンケー ト」の生徒指導及び安	・定期的に身だしなみ指導を行い、相手を不快に思わせない著こなし 方を身につけさせた。また、登校時や学校生活においても気になる生 徒には声をかけ意識させた。 ・毎月最初の登校日を「fonelinityの日」とし、周りの人に対する日頃		○日頃から生徒へ呼びかけたことで身だしなみが整い、挨拶ができる生徒が増加した。	-	
生徒指導	・いじめ防止対策基本方針の徹底と自殺防止の啓発	3	施策 I −3	全指導の項目評価・着用率の調査と分析	の言動を見直し、人権意識の啓発を行った。 ・迷惑調査等で得られた情報をもとに生徒から聞き取りを行い対応した。教育相談や三者懇談等でその後の経過観察を行い、再発防止に努	В	○迷惑調査において情報のあった生徒に対して速やかに対応して、解決・改善へと繋げることができた。		
	・講話等による自転車通学のルール・マナーの徹底 とヘルメット着用の励行	19	施策Ⅲ-19		・ 外部講師による講話を実施した。 (交通安全、ヘルメット着用啓発、情報モラル、薬物乱用防止、人権、 陽バイト) ・ ヘルメット着用率を上げるために生徒への呼びかけや交流会に参加した。		ヘルメット着用の呼びかけや講話を実施したが定着には至らなかった。来年度に向け生徒と話し合い、着用率が上がるような取り組みをしたい。 交通事故は昨年度より歳少している。 (今年度14件半昨年度より3件歳少)		
	・情報モラルの向上指導と薬物乱用防止講話の開催	19	施策Ⅲ-19				▲講話を聴くことで知識理解へと繋がった。来年度はグループ活動など、生徒にも考えさせる内容を取り入れることを検討したい。		
進路指導	・積極的な情報提供と学年及び担任との連携を密に したキャリアパスポートの作成	13	施策Ⅱ-13	・「生徒及び保護者等 を対象とするアンケー ト」の進路指導の項目	・進路ガイダンスや説明会での感想をキャリアパスポートに綴じ込み、活動を振り返られるようにした。・進学先の情報について積極的に調べることができていない生徒がおり、オープンキャンパスへの参加が1校の生徒がいる。・保護者アンケートの結果では、肯定的な回答が多く、適切な情報提供はできていると考えられる。・就職希望者は全員内定を頂戴し、内定率は100%である。	В	▲進学先へ提出する志望理由で、地域貢献 = 地方公務員または地方銀行への就職という安直な考えの生徒が多い。	В	
	・進路指導室の利用を推進し、企業や上級学校に関 する情報を自ら調べる力を育成	13	施策Ⅱ-13	下」の進路指導の項目 評価 ・インターンシップや			▲進学先として、志望校を検討する上で、複数の学校を比較させる手立てを検討する必要がある。 ▲就職試験の対策として、多様性が求められる現在、企業が求める面接試験について、教員が理解し、指導できる体制が必要である。 ○1年生に対してインターンシップを実施した。生徒の満足度の平均は8.15点/10点であり、実施の効果はあった。		
	・インターンシップの実施による望ましい職業観と 勤労観の育成	13	施策Ⅱ-13	オープンキャンパスへの参加状況					
	・オープンキャンパス等に積極的に参加させ、上級 学校への理解と学習意欲の向上	13	施策Ⅱ-13	・進路先内定率100%					
その他	・各学科、各コースの目標を明示し、創意工夫を活かし た魅力ある商業教育の推進と外部への積極的な情報発信	10	施策Ⅱ-10	・「生徒及び保護者等を対象とするアンケー	・各学科コースが創産工夫し外部との運携を推進した。 A腹地女子短大 B農家、機島地区イント、企業訪問 C複数企業、販売会 仕入先 D武蔵野大学、峻阜協立大学、鏡島地区自治会、小中学校等 ・外部との運携で、生徒が主体的に対話し計画を進めることができた。 A岐阜 女子短火の先生を招聘した投票を実施し、学むを深めることができた。 B地域 マネジメントコースが始まり、岐阜市内へ出で学びの場を広げた。 地域のイベ といか手伝い、岐阜市の整理活動を通して、岐阜市の単力を発見するともに 様々な人と関わることでコミュニケーション(能力を身に付けた。 足郷研究に 様々な人と関わることでコミュニケーション(能力を身に付けた。 C課題研究に はいて、複数の企業を連携し活動した。 進入カップでは優勝自指した協設改 営、仕入先との折衛、情報発信、技客力を上げるよう取り組んだ。 Dアントレ プレナーシップ教育では、グループで協動し自分さちに出来ること、やるべき ことを考えた。実際の起棄家と接した経験や、大学・地元小学校と関わること で主体的な学びを実践し、起業家精神を身に付けた。	В	○各学科、コースが特色を活かして外部連携を推進してきた。 また、今年度は情報発信についても積極的にSNS等を利用した 活動を生徒が実施することができた。		
	・外部の教育力や地域連携を活用した主体的かつ対 話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践	13	施策Ⅱ-13	ト」の家庭との連携及 び学習指導や学校行事 の項目評価			○大学や地元自治会、小中学校との連携を積極的に推進した。 生徒が外部の方と話す中で自身の言葉で伝える力を身に付ける ことができた。		
	・外部の教育力や地域連携を活用し、将来の職業人として必要な倫理観やビジネスマナー、コミュニケーション能力の育成	13	施策Ⅱ-13	・各種検定試験の合格 率			○地域連携を推進する中で、学校生活で身に付けた挨拶、ビジネスマナーを実践することができた。外部との関わりを通してコミュニケーション能力を高めることが出来ている。		
	・各学科、各コースの到達目標である資格の確実な 取得と高度な資格取得への挑戦	14	施策Ⅱ-14				▲各学料コース毎の目標を達成するため、ほぼ計画通り進めることができたが取得率は伸び略んだ。日頃の授業の中から授業姿勢を見直し、目標意識を高めることでもっと成果が上がると考える。		

来年度に向けての改善方策等

実施日:令和7年1月20日 学校関係者評価

実施日:令和7年2月12日

- ・ICT機器を活用した学習指導に関する校内研修や各教科での授業研究会等を充実させ、生徒が協働的かつ主体的に学ぶ とができる授業改善
- ・生徒が自ら考え行動する人間力の向上と生徒会活動の活性化や学校生活における充実感や達成感を高めるため、生徒が企 画・運営を担う学校行事へ改革
- ・本校の教育活動の実践内容をわかりやすくかつ魅力的に発信する学校案内やホームページの内容やデザインの変更
- ・ヘルメット着用率の向上を目指し、MSリーダーズや生徒会等による継続的な呼びかけと定期的な着用率調査、関係機関 と連携した交通安全教室や外部講師による生徒参加型の啓発講話の実施
- ・歩きスマホ、授業中の着信音や操作によるルール違反の増加に伴い、校内でのスマートフォンルールの見直しの実施
- ・国語科や関係機関と連携した1年次からの小論文指導や教員向け面接指導・小論文指導研修の実施
- ・倫理観やビジネスマナー、豊かなコミュニケーション能力を身につけ社会で活躍できる人材育成を図るため、産学官の連 携を強化したアントレプレナーシップ教育の実践
- ・各種検定試験の合格率向上を目指した教育課程の検討会や授業研究会の実施、単元テストや特編授業の充実

- ・学校は、地域から愛され信頼されることが大切である。地域と連携した活動において年代を超えた取組により、次世代育成に 繋がる教育の基礎づくりになっていることがうかがえる。
- ・「市岐商デパート」の評価が大きく上昇している。県内で唯一の学校行事であることも含めて広報活動により力を入れるとよ
- ・自転車ヘルメットの着用率を上げるための施策を検討しており、交通事故防止に向けた活動は評価できる。
- ・就職率100%は大変評価できる。求人数は増加傾向にあるため、生徒の就職への関心をよりもたせることができる取組が必要 である。また、先生方は企業が求める人物像についての知見を深め、生徒に還元してもらいたい。
- ・外部との連携でさまざまな人や状況を経て、コミュニケーション能力、仲間と協働する力、起業家精神等を身に付けている。 このような体験は、今後に繋がる貴重な力となる。
- ・生徒と一緒に行った活動から、生徒たちの素敵な笑顔をたくさん見ることができ、とても穏やかな学校生活を過ごすことがで きていると感じている。これは、日頃の教育活動の大きな成果である。
- ・生徒の価値観や意識が多様化していく状況の中で、先生方が柔軟な発想力や創造力を発揮し創意工夫を凝らした取組で生徒の 育成ができている。